

## 地域日本語教育プログラムの 要素から

野山 広 司会・進行役とコーディネーターを務めます野山広と申します。ふだんは、国立国語研究所に勤めながら、東京外国語大学で特任研究員をやっております。今日は、よろしくをお願いします。

最初に、ここに座っていただいているパネリストの方々をご紹介します。「えひめJASL」創設者で初代代表を務め、現在は研究部長の田中喜美代さん。次が財団法人石川県国際交流協会専任講師の今井武さんです。そして、東京都足立区区民課の多文化共生担当主査の鈴木圭子さん。それから、NPO法人国際活動市民中心（CINGA）の日本語チームの宮崎妙子さん、東京都武蔵野市国際交流協会（MIA）の日本語学習支援コーディネーターの河北祐子さんです。以上、5人の方には後で実践の事例をお話していただき、パネルディスカッションに入りたいと思っています。

報告とパネルディスカッションに入る前に、第1部として東外大多言語・多文化教育研究センターフェローの笹野智紀さんにこれまでの地域日本語教育プログラムの調査研究について中間報告という形で発表してもらいます。笹野さん、お願いします。

**笹野智紀** 東外大多言語・多文化教育研究センターが進めています「協働実践研究」の野山班のサブコーディネーターを務めております笹野です。私からは、野山班として行った「地域日本語教育プログラムの調査」の中間報告をいたします（資料p.102～112参照）。



野山 広

野山班の研究テーマは、「地域日本語教育プログラムの在り方を検討する」です。多言語・多文化社会に対応した地域における日本語教育のプログラムを考えることが、テーマとなっております。

私たちの班では、月1回の研究会や数回の実地調査を通じて実践研究を続けてきております。中間報告では、2007年9月、10月、11月と計3回行ってきた実地調査を中心に述べたいと思います。07年度は主に地域に住む外国人の数が少ないといわれている、非集住地域・分散地域を中心にこれまで3カ所の地域を調査対象としてきました。具体的には、

- ① 9月20日から22日に秋田県能代市
- ② 10月26日、27日に愛媛県松山市
- ③ 11月20日、21日に石川県金沢市

以上の3都市で出張調査を行いました。後に詳しく触れますが、各地域の特性を観察しながら、地域の日本語教育がどのように動いているかというのをまず観察しようというのが私たち野山班のテーマでありますから、そのいろいろな地域を回って調査できたというのは非常にこの研究にとって有意義だったと思います。

## ● 地域日本語教育の要素



旗野智紀

各地域のプログラムを観察することで、これから野山班が構築しようとする地域日本語教育のプログラムに必要な要素や観点を抽出することが、この3カ月の調査研究、出張調査の目的となっていました。今日の分科会は、愛媛県の「えひめJASL」から田中さん、また石川県国際交流協会から今井さんを登壇者にお招きしております。愛媛と石川は登壇者の方に後で報告していただくこととなりますので、今日ここでは9月に行った秋田県能代市の「のしろ日本語学習会」を中心に調査を通じて感じたことを、私の目線で述べたいと思います。

地域日本語教育のプログラムに関する要素として抽出できるものに、まず地域特性があります。その地域特性で言えば、秋田県能代市は東京からかなり離れた位置にあります。いわゆる農村地域というわけですが、そういった地域においては、電車とかバスというのは東京に比べるとあまり発達しておらず、やはりマイカーがかなり重要な交通手段となります。ですので、日本語教室に通うた

めにも車を相乗りして教室に行ったりとか、また結局夜遅くまで教室が行われていた場合に、家族に教室まで迎えに来てもらうなど、家族との連携というものが重要になってくるわけです。そこに地域の家族社会や地域社会の広がりというものをも十分に感じ取ることができるでしょう。

また、地域によって方言もあります。その方言をどこまでプログラムに反映させるべきなのか、その地域文化のようなものをどのように取り入れていったらよいかというのも課題になっています。今日も、愛媛や石川の方言の教育などもお話をうかがえるかもしれませんが、それらは各地域におけるその特性ということになります。

2つ目は、地域リソースです。能代市では日本語教室の会場として、「能代市働く婦人の家」というところを使っています。ここを毎週確保することで日本語教室の活動は完全に担保されています。私たちが調査に行った「のしろ日本語学習会」で、北川裕子さんという方が主宰者ですけれども、そこでは、託児室を使って教室の活動が行われています。

教室のほぼ中央に白板があり、その前には主に日本語を学ぶお母さんが机に向かって勉強し、白板の後ろにはお母さん方の子ども、ほとんどが乳幼児ですが、いて保育のボランティアの方が面倒を見ている（下写真）。

実際にこの白板の前に私も立ってみましたが、非常に学習者の方との距離が近いのです。教室一面に敷かれた緑のマットに座っていて、相互のやり取りが非常に活発化される要因のひとつではないかと思いました。また、保育のボランティアが託児コーナーで子どもたちの面倒を見るわけですから、一見、日本語教育というものには興味がなかなかないようなボランティアスタッフも、保育という自分のやりたいことを通して日本語教育の場に参画できるのです。こういったきっかけというか、地域社会の人間関係を広げるために、いろいろな関心を持った人が日本語教室という場に一緒にいられるというのは、いわばリソースを発掘する手段として機能しているし、この教室の一角に託児のための空間を設けるという発想が、非常に功



を奏しているのではないかと  
思われます。

主要要素の3つ目として、教室の機能があります。けれども、今、申し上げた通り、単に言語教育とか言語の習得ということに限らず、地域の中のいろいろなリソースを発掘するとか、人間関係づくりの場というのが、この教室の機能として挙げられます。私が能代市で、ボランティアの方にインタビューしたときに、彼女はこういうふうにおっしゃっていました。



生まれは能代市ですけれども、大学を終えて仕事の関係で一回東京に出てきたんですけれども、東京で諸事情によって仕事を辞めることになって、能代市に戻ります。十数年ぶりに故郷へ戻ってみると何となく居場所がない。でもそのときに、この「のしろ日本語学習会」のボランティアを始めることによって新しい人間関係をつくるきっかけができた。つまり、居場所づくりのきっかけになったのです。そしてさらにその彼女が言うには、その何らかの事情によって東京から秋田に戻って来たときに少し元気を失っていたけれども、活発に一生懸命学習している外国人の姿を見て非常に自分も元気がもらえたということをおっしゃっていました。

このように、日本人にとってもいろいろと学び合いとか、元気をもらえるだとか、そういったことを体験できるのは共生社会の醍醐味と言えるのではないのでしょうか。そういったことを私は秋田で感じ取ってきました。その日本語教室を支える最大の要因というか、維持、発展の要因として、主宰者の信念というものを挙げたいと思います。日本語教室を開いたりそれを維持したりする人たちというのは、みんな日本語教育に強い信念を持っていらっしゃる方が多いと感じます。例えば北川さんですと、日本語教室を続けるためにはその学習者の家族の理解も必要であるという信念が原動力となって、新しい外国人が「授業を受けたい」と来た場合は、必ず家族の承諾を取っているということです。そういった信頼を獲得するための小さな努力の積み重ねというのが、「のしろ日本語学習会」の教室の維持につながっているという意味で、主宰者の信念というのは非常に大事な要

素のひとつであると思われます。今回、この分科会でも5つの団体、5人の方々から五者五様の信念がうかがえるんじゃないかと、非常に私自身楽しみでございます。

### ● 重要なコーディネーターの役割

最後に野山班の活動報告に戻って、今後の予定、展望ということで述べさせていただきます。今後協働する地域としては、集住地域と首都圏が中心になります。中でも足立区と上田市では、野山班のメンバーが中心となって、市民との協働でボランティアのための養成講座を担当しています（資料p. 113～115参照）。協働実践研究ということで、現場の人と協働して実際にプログラムを実践するきっかけができればと考えております。今後の目標としては、他組織、団体、日本語教育関係者、専門家との連絡、協力の現状や課題を把握することや、コーディネーターの位置づけの再考、があります。日本語教室というものを



「のしろ日本語学習会」の学習の様子

を考えたときに、例えば学習者から何か生活の悩みを学習支援者が受けた際、そういうことはここに相談したらいいよ、と具体的に示せるようにその地域で連携が必要になってくるわけですが、その連携の仲立ちをするコーディネーターというものが非常に重要な位置を占めてくるのではないのでしょうか。

以上の状況を踏まえて、地域日本語教育プログラムにおけるさまざまな要素を類型化、整理し、これからの多言語・多文化社会にふさわしいプログラムを作成する基礎資料を提供していくことが、野山班の差し当たっての目標となっております。この分科会は、まさにそれに向けて実際に動いている地域・団体のプログラムについて考えて、実践研究の道筋を立てることが目的となっております。この目的に向けて、私たちの野山班の問題意識を会場の皆さんと共有できればと思っておりますし、皆さんの中にも地域で日本語教室に携わっている方がいらっしゃると思いますけれども、ぜひご自身の地域との比較や照らし合わせて考えていただければと思っております。